

BERLIN 2011



第 11 回ミシュラン・チャレンジ・ビバンダム

2011 年 5 月 18 日 ~ 5 月 22 日

ベルリン

プレスキット

持続可能なロード・モビリティをめざして

後援：

ドイツ連邦経済・技術省 (BMW)
ドイツ連邦交通建設都市開発省 (BMVBS)

よりクリーンで、より安全で、ネットワーク接続された
最新のロード・モビリティをめざして

目 次

ミシュラン・チャレンジ・ビバンダム 持続可能なロード・モビリティをめざす世界的イベント

概要

PART1 – 持続可能なロード・モビリティの夢を現実に

PART2 – 持続可能なロード・モビリティに対する障害への関心の高まり

PART3 – 持続可能なロード・モビリティの可能性を実証

PART4 – 持続可能なロード・モビリティを広げるアクション・プランの提案

PART5 – 開催日程/ 数字で見るイベントの概要 /情報

概略

「第 11 回ミシュラン・チャレンジ・ビバングラム」が、2011 年 5 月 18 日にベルリンで開催されます。

「ミシュラン・チャレンジ・ビバングラム」は持続性可能なロード・モビリティをめざすユニークなグローバル・イベントです。2007 年に上海、そして 2010 年にリオ・デ・ジャネイロで第 10 回記念大会を開催。「第 11 回ミシュラン・チャレンジ・ビバングラム」は、初めてベルリンで開催されます。

ベルリンは、今からちょうど 125 年前の 1886 年に自動車が開発された国、ドイツの首都です。ベルリンはまた、住民や街を訪れる訪問者の移動の便宜を図るべく、日々技術革新が進む 21 世紀のドイツの首都でもあります。つまり、この素晴らしく近代的な都市と、1998 年以来、**よりクリーンで、より安全で、ネットワークをより広く活用したモビリティ**を積極的に推進してきた「ミシュラン・チャレンジ・ビバングラム」の開催地としてふさわしい地です。

今年はいままで以上に、ヒトやモノのモビリティに関わる課題がいつそう顕著になり、緊急度を増すでしょう。これらの課題には、埋蔵量が減り続け、価格が高騰している石油資源の問題、より広く言えば、全大陸でのエネルギー調達に関連する問題、また世界各国の経済やロード・モビリティのセクターに関わる問題も含まれます。健康や環境関連の問題、地球上で加速する都市化の問題や世界規模のデジタル革命もまた、これらの課題に含まれます。直面する課題は多く、克服すべき困難は大変に大きいのです。

一方、良いニュースもあり、これもまた重要です。それは、これらの課題に対応でき、よりクリーンで、より安全なロード・モビリティの方向に社会を迅速に動かしていくことが可能なソリューションの存在です。これらのソリューションは存在しているだけでなく、利用される機会を待っています。これらのソリューションを私たちの日々の生活環境に効果的に導入していくために必要なのは、国の諸機関や企業のリーダーからのコミットメントなのです。

よりクリーンなロード・モビリティのためのソリューション：

車両の軽量化、内燃エンジンの最適化、そして部分装備の電気自動車（停止・起動システム、ハイブリッド・エンジンなどを装備）やフル装備の電気自動車（バッテリー、あるいは燃料電池による電力供給）の開発による燃費の改善が含まれています。これらのソリューションは、「ミシュラン・チャレンジ・ビバングラム 2011」で展示されるだけでなく、ドイツやその他の国の一般道でも実際に目にすることができます。

より安全なモビリティのためのソリューション：

2011 年 5 月 11 日に、国連の「交通安全のための行動の 10 年」が発表され、官・民それぞれのセクターでこの運動に向けた取り組みが迅速に開始されています。2010 年の交通事故の死亡者が 130 万人に上ることを考えると、今はまさに行動の時です。ロード・モビリティに関わるステークホルダーが共に行動することにより、交通事故の急激な増加をくい止め、世界中で交通事故による死傷者の数を短期間で大きく減少させることができるのです。

ネットワークを活用したモビリティのためのソリューション：

インテリジェントな伝送システム、内蔵型コネクティビティ・ソリューション、そして知的情報処理とデータ転送ネットワークの急激な発展は、スムーズな交通を支援し、移動する場所や目的にかかわらず、あらゆる人々のモビリティを容易にしてくれるでしょう。

このように、課題が大きい一方、ソリューションはすでに存在しているのです。持続可能なロード・モビリティ促進に向けた一体化した取り組みは、1998年以來、「ミシュラン・チャレンジ・ビバングダム」のミッションであり、唯一の目的でもあります。時は熟しています。私たちには、迅速な行動が必要なのです。

PART 1

ミシュラン・チャレンジ・ビバンダム：持続可能なモビリティをめざす世界的イベント 持続可能なロード・モビリティの夢を現実に

明確なビジョンを示すコミットメント

「第 11 回ミシュラン・チャレンジ・ビバンダム」は、クリーンで、安全で、ネットワークを活用した持続可能なモビリティが形成する輝かしい未来に向け、5月18日にベルリンで開催されます。

「私たちが夢見た車—それは、環境に害を及ぼさず、異なる環境にも適用する車—そのような車が現実のものになろうとしています。その実現に向けてのプロセスを加速するのは私たちです。きれいな空気と車のどちらを取るか？私の答えは明らかです・・・それは、両方です」

「第 1 回ミシュラン・チャレンジ・ビバンダム」が開催された 1998 年に、エドワール・ミシュランが表明したこの明確なビジョンを持ったコミットメントが今、技術的に可能となっています。それはまた同時に、ますます緊急に取り組む必然性を持ったものとなっています。「第 11 回ミシュラン・チャレンジ・ビバンダム」の目的は、自動車愛好者から政策決定者まで、幅広く存在するステークホルダーの人々をまとめること、また未来の持続可能なモビリティを広く親しみやすいものにするために、一般の人々を巻き込んでいくことです。

自動車のあとに来るのはモビリティ

20 世紀に生まれた自動車、それは個人の自由の象徴になりました。夢が現実になり、地球規模の拡大は特に、様々な輸送手段の発展によって加速されてきました。しかし、その成功には犠牲もありました。このようにして発展してきた自動車ですが、20 世紀終盤には落ち込みが始まり、輸送産業セクターは安全性、環境問題、経済性、そしてエネルギー資源といった課題に直面しました。21 世紀に入り、新世紀の幕開けにあたる今、これらの課題に技術的な観点から取り組んでいます。私たちは、どの資源も枯渇させないように、エネルギー資源をさまざまに選択、変化させつつ、より安全に、よりクリーンに、そして騒音を抑える運転の方法を知っています。これらの技術的な進歩を幅広く活用し、広く一般に利用可能なものとする時が来ているのです。環境保護、安全性、技術性能とドライビングの喜びを一体のものとするのは妥協ではなく、ロード・モビリティに関わるステークホルダー全員が共有するコミットメントなのです。

「第 11 回ミシュラン・チャレンジ・ビバンダム」の目的は、持続可能なロード・モビリティに向けて大きく踏み出す必要性を示すこと、また技術的な各種のソリューションを展示し、持続可能なロード・モビリティを誰もが利用しやすい現実的なものとするために、官・民のセクターのリーダーに対し、特にコストの観点からリソースを提供することです。自動車産業の長い伝統をもった国、そして再生と未来を象徴する街、ベルリン。このイベントの目的に弾みをつけ、明日の交通輸送や都市開発のソリューションを再考するために、ベルリン以上にふさわしいヨーロッパの都市があるでしょうか？

グローバル・フォーラムを初めて幅広く一般に公開

ベルリンの旧テンペルホーフ空港を会場として開催される「第 11 回ミシュラン・チャレンジ・ビバンダム」、この会場ではディベートや討論会、技術展示センター、車両が参加する

3 カテゴリーのラリー、プレス・コンファレンス、国際フォーラム、そして新しい技術や車両のフルスケールのデモンストレーションが行われます。

開催中の5日間には、政界、産業界、科学、そしてメディアから6,000名以上の参加者が集まり、持続可能なロード・モビリティに関する課題とソリューションについて討議します。また、学生向けに考案された1日プログラムが設けられ、1,000名の学生が招待されます。さらに今回、ミシュラン・チャレンジ・ビバンダムとして初めて一般公開日を設けます。当日の5月21日と同22日には、テンペルホーフ空港には15,000名以上の来場者が見込まれています。

世界中から集まる自動車メーカー、部品サプライヤー、公共サービス機関、そして研究機関が、270以上の製品、プロトタイプ、あるいは新型モデルの車両を展示し、電気オートバイやハイブリッド車から代替駆動システムを使ったバスやトラックまで、幅広い分野をカバーしています。ロード・モビリティの理解には実際の経験が不可欠です。そこで、実践的かつ現実的なアクティビティが2日間にわたって実施されます。これらのアクティビティには、電気スポーツ・カーのサーキットでのテスト走行、小型シティ・カーの性能を評価するために、市街地における走行条件を再現した走行イベントや、開発エンジニアが同乗する試乗も行われます。また、300キロメートルを走行するエコ・ドライブ・テストでは、アウディA8とシトロエンDS3を実際に運転し、参加者個人の環境に優しい運転スキルをチェックします。

PART 2

ミシュラン・チャレンジ・ビバンダム：持続可能なモビリティをめざす世界的イベント 持続可能なロード・モビリティに対する障害への関心の高まり

交通輸送業界は現在、持続可能なロード・モビリティの可能性をむしろ大きな課題に直面している、と述べても過言ではありません。これらの障害には、石油資源の供給力と価格の問題、温室効果ガス排出問題、交通事故、そして都市の過密化があります。これらの問題は大変よく知られており、すでに多くの議論が交わされています。現状では、感情論や反対論が理性的な対応よりも多く見受けられ、信頼性に足る、具体的な情報に欠けているのが実情です。「ミシュラン・チャレンジ・ビバンダム」の主たる目的が、持続可能なロード・モビリティが直面する真の課題と克服すべき障害を明らかにし、必要とされる専門知識を提供しようとする理由はまさにここにあるのです。

「第 11 回ミシュラン・チャレンジ・ビバンダム」では、持続可能なロード・モビリティに関する 4 つの主要な課題にフォーカスします。

都市

現在、世界人口の大多数は都市部に居住していることから、都市では交通輸送と生活の質の調和を図る必要性に迫られています。いくつかの都市では、有害な排出物による大気汚染での健康問題、都市部の過密状況によるストレス、ビジネスにおける生産性の低下、さらには交通事故による死亡などの問題が発生しています。

地球

現代社会において、自然環境の保護は大きな関心事です。そして、これは人類の未来を左右する問題でもあります。化石燃料を燃焼させる道路輸送は、温室効果ガスの増加の原因となっています。これらの温室効果ガスが、人口が増え続けている地球の温暖化を引き起こしているのです。世界の食糧資源を護りつつ、石油への依存度を下げるためにエネルギー資源を分散化していくことは、すべてのステークホルダーが共有する責任です。

欧州委員会副委員長（運輸担当）のジャック・パロ氏は、2006 年にパリで開催された「第 8 回ミシュラン・チャレンジ・ビバンダム」において次のように述べています。

「21 世紀のモビリティは二重の課題を克服する必要があります。それは、経済発展を可能にしつつ、人と環境を確実に保護することです」

経済的課題

持続可能なモビリティの追求においては、経済的な問題が決定的な役割を果たします。交通は個人にとっても、社会全体にとっても重要で、ますますコストがかさんでいます。しかし、移動という行為自体は贅沢なことではなく、多くの場合、会社への通勤などのように、日常生活に必要不可欠なものです。輸送業界は、雇用の大きな引き受け先でもあります。輸送業界のステークホルダーが、持続可能で、広く普及でき、価格的にも妥当なソリューションを作り上げるために、変革を推進し、牽引していく義務があるのは、まさにこの理由によるのです。しかしながら、彼らの責任は、それだけに留まりません。なぜなら、持続可能なロー

ド・モビリティは、国家経済、ひいては世界経済に必要不可欠なサポートを提供するものだからです。

効率

交通輸送は究極のゴールであり、いっそうの効率化を図る必要があります。人間の生命の尊重が常に最優先課題であることからすれば、交通輸送は今以上に安全なものでなければなりません。同時に、それはいっそうのスピード感を備え、利用者に今以上の大きな喜び、快適性、そして満足感を提供できるものでなければなりません。

PART 3

ミシュラン・チャレンジ・ビバンダム：持続可能なモビリティをめざす世界的イベント 持続可能なロード・モビリティの可能性を実証

「ミシュラン・チャレンジ・ビバンダム」の目的は、持続可能なロード・モビリティについて、その現状の課題に焦点をあてることにあります。主催者側と参加者の役割は、専門知識を活用し、技術的なソリューションがすでに存在すること、そして今大きな努力を払うべきなのは主に政治なのだを示すことです。エネルギー消費コストを効率よく削減し、石油に集中している技術に対して価格的にも手頃な代替技術を提供し、満足のゆくロード・モビリティに幅広いアクセスを提供しつつ、安全性も向上させることを目的にした、技術的に信頼性が高く、かつ対法規制にも適合したソリューションを見出すことは可能です。「ミシュラン・チャレンジ・ビバンダム」には、これらの技術が展示されているだけでなく、各企業、研究機関や、その他の団体のエキスパートが技術展示センターに出品されている革新的な技術について説明してくれます。また、これらの革新的技術そのものは、実演や車両技術の比較を通して紹介されます。来場者にイベントに参加してもらい、それぞれのソリューションの利点、課題や難点に対する理解を深めてもらいます。

ラリーで車両をテスト

乗用車で、町から町へ、走行距離 300 キロメートルにおよぶインターシティ・ラリーが実施されます。このラリーでは、車両の安全性と信頼性に関するテスト、燃費測定、また実際の生活環境条件下での **well-to-wheel**（一次エネルギーの採掘から車両走行まで）の炭素排出量の測定が行われます。

市街地走行用車両や、2 輪あるいは 3 輪車両には、市街地での運転条件を再現した走行距離 30 キロメートルの特設コースが用意され、ラリーに参加する車両のアクセル、ブレーキ、ノイズ・レベル、燃費性能をテストします。

電気自動車については、都市や近郊での運転環境における電気自動車の性能をテストするために、走行距離 125 キロメートルのラリーが計画されています。テスト項目は、ハンドリングとスタートから時速 100 キロまでの加速能力の測定です。

商用車、バスなどについては、燃費、環境保護対応、交通安全、そして交通渋滞の緩和の分野で達成された成果にぜひご注目ください。

高性能を称える表彰

「ミシュラン・チャレンジ・ビバンダム」では、開催期間中、素晴らしい性能を示した車両を表彰します。環境のカテゴリーでは、汚染、燃費、炭素排出や騒音が最も低かった車が表彰されます。安全性のカテゴリーでは、加速、ブレーキ、ハンドリングの 3 分野で最も高い性能を示した車が表彰されます。

「第 11 回ミシュラン・チャレンジ・ビバンダム」の 3 日間は、プロフェッショナルのみを対象としますが、その最終日には、ベルリン市街地の通りで大規模なパレードが行われます。クリーンで、安全で、ネットワークを活用した車両が、ブランデンブルグ門までパレードします。それぞれの車両には、専門知識のあるスタッフがつき、来場する人々に技術的な情報を提供します。

2007年の上海大会の際、中国の科学技術省の大臣、Dr. Wan Gang は「ミシュラン・チャレンジ・ピバンダム」でこのように語っています。

「今日、発表された車両が将来、わが国、そして世界各国で活用されることは確かであると
感じます。ここでテストされた技術は、21世紀のクリーンな製品にとって極めて重要な技
術です」

PART 4

ミシュラン・チャレンジ・ビバндаム：持続可能なモビリティをめざす世界的イベント 持続可能なロード・モビリティを広げるアクション・プランの提案

「第 11 回ミシュラン・チャレンジ・ビバндаム」は、持続可能なロード・モビリティの障害に対する関心を喚起し、それらの障害が克服できることを実証することに加え、持続可能なロード・モビリティの範囲を広げるアクション・プランを提案するユニークな場所として、その立場を確立したいと願っています。ソリューションは存在するのです。ですから、官・民のセクターのステークホルダーからの強いコミットメントのみが、よりクリーンで、より安全で、ネットワーク接続を活用した持続可能なロード・モビリティを可能にするのです。

政策決定者間の協力体制

要となるのは、協力体制です。それが、「第 11 回ミシュラン・チャレンジ・ビバндаム」が、政界と経済界の政策決定者、ビジネス・リーダー、科学者、政府のエキスパート、そして国際機関（欧州連合、OECD、WHO、IEA、UNEP、WBCSD、WEF など）の代表者を一同に集め、イベントを開催する理由なのです。ドイツ連邦交通建設都市開発省と同経済・技術省の後援を得た「第 11 回ミシュラン・チャレンジ・ビバндаム」では、広く世界中から政府関係者の参加を期待しています。

「第 11 回ミシュラン・チャレンジ・ビバндаム」のハイライト、5 月 20 日に開催する「リーダーズ・フォーラム」には、公共と民間セクターのリーダーが参加します。その目的は、より安全で、クリーンで、ネットワーク接続を活用したモビリティの将来像についてプレゼンテーションをし、シナジー効果を生む方法や、アクション・プランを早急に展開するためのサポートについて意見交換をすることにあります。このフォーラムで議論されるトピックは下記の 6 つです。

- ① 持続可能なモビリティの課題
- ② 既存のソリューション
- ③ 交通安全：ソリューションは存在するが、強いコミットメントが必要
- ④ エネルギー：持続可能な交通輸送を開発するためのキー
- ⑤ 近代的な都市型モビリティに向けた新しい機会
- ⑥ 持続可能なロード・モビリティに向けた競争

エキスパート・ワークショップ

「第 11 回ミシュラン・チャレンジ・ビバндаム」では約 20 のテーマについてワークショップを開催します。それぞれのワークショップには、世界各国から 15 名～20 名のエキスパートが参加し、特定のトピックについて議論します。これらのワークショップの成果は 5 月 19 日の午後 5 時 45 分からテンペルホーフ空港でゲストとジャーナリストに向けて発表されます。

下記は、ワークショップで討論されるテーマの一例です。

■クリーン

- 電気自動車に関するポジティブなビジネス・ケースの発見（乗用車、トラック、バス）
- 電池：ビジネス・ケースと最近の開発
- 電気自動車用の燃料電池開発に向けたロードマップ、そしてエネルギー源としての水素

- ロード・モビリティのソリューションとしてバイオマス燃料を利用した持続可能なビジネス・ケースの創造
- 交通と炭素経済について
- well-to-wheel（一次エネルギーの採掘から車両走行まで）に排出される二酸化炭素排出量を、低炭素モビリティに向けた試みの節目となる1キロメートルあたり100グラムまで削減するためのロードマップの策定
- 自動車産業における天然ガスの将来
- 交通騒音と都市生活、そして持続可能なモビリティの共存

■安全性

- 集団と安全性：エネルギー効率とコスト面の制約から車両の軽量化が進む際の安全性の確保と、すべての道路使用者間の親和性
- 高度にモータリゼーションが進んだ国において、道路の安全性をさらに高めるための優先事項
- 持続可能な開発に向け、交通安全に係るビジネス・ケースの促進

■ネットワークの活用

- 情報通信技術とコネクティド・モビリティのためのサービス：ロードマップとビジネス・ケース

■クリーン－安全性－ネットワークの活用

- 近代的な都市型モビリティに関するビジョン
- 都市型モビリティの構築において、バスの乗り換えをより効率化する
- トラックのロジスティックの最適化に向けたビジョン：今日の宅配型ロジスティックのオペレーション成功の主要因
- 持続可能なモビリティの課題とソリューションへの関心を喚起

■概略

- コンファレンスは、5月19日、午後5時45分から6時30分まで開催。前日のイベントの成果の概略についてプレゼンテーションが行われる。
- フォーラムは5月20日の午前8時30分から午後1時まで開催。トピックは「論争から事実、そしてアクションへ：より安全で、よりクリーンで、ネットワーク接続をより活用したモビリティの開発に向けた優先課題とシナジー」

「『ミシュラン・チャレンジ・ビバングラム』を導くのは、自動車は改善を目指しており、さらなる可能性があり、健在であること、そして道路交通は社会のニーズに応え、明るい未来があるというスピリットです。私たちは、現在直面している問題—エネルギー、環境、安全性の問題、そして効率的なモビリティのソリューションを誰もが利用できるようにすること—これらの問題と世界の政策決定のプロセスの遅々とした歩みの間に存在するギャップを小さくしていかなければなりませんし、それは可能です。革新を組織的に展開するためには、官・民の緊密な調整が必要となります。恐れることなく未来を見つめ、ローカルとグローバルのソリューションの両方に対し、広くオープンな気持ちを持ち続けましょう。真に重要なことは、すべての人の健康のために必要とされる厳しい選択を先送りしないことです。ベルリンで行われるエキスパートの皆さんの議論と各種のイベントによって、私たちがよりクリーンで、より安全で、ネットワークをより活用したロード・モビリティの実現に向けて、更なる一步を踏み出すことを期待しています」

ミシュラン・グループ、マネージング・パートナー、ミシェル・ロリエ

PART 5

ミシュラン・チャレンジ・ビバンダム：持続可能なモビリティをめざす世界的イベント 開催日程 / 数字で見るイベントの概要 / 情報

「第11回ミシュラン・チャレンジ・ビバンダム」：数字で見るイベントの概要

- 旧テンペルホーフ空港で開催する5日間のイベント。期間中の3日間は、ロード・モビリティの専門家を対象に開催。残りの2日間は一般公開。その内の1日は学生を対象とする
- 270台以上の二輪車、乗用車、バス、トラック
- 出展企業は75社以上
- 一般公開日の5月21日、5月22日の予想来場者数は、企業関係6,000名、一般15,000名以上
- 世界各国から500名のジャーナリストが参加。
- 90名のブロガーが参加
- 5月18日には、インターシティ・ラリー、シティラリー、電気自動車の3カテゴリでラリーを実施
- リーダーズ・フォーラム（5月20日）
- 5月18日、19日の両日、20以上の技術的な討論会を開催。5月19日にはその討論結果の概要をプレゼンテーションする

■開催日程（概要）

5月18日（水）：エキスパート・デイ

- 走行距離300キロのインターシティ・ラリー（参加車両は約30台）
- 市街地で、走行距離30キロのシティラリー（参加車両は約50台）
- 走行距離120キロの電気自動車ラリー（参加車両は約15台）
- 車両テストとテクニカル・デザインに関する研究会
- ワークショップ：テーマは電気推進、炭素排出量、交通安全の未来
- 専門家向けに技術展示センターをオープン
- ベスト・テクニカル・デザイン賞の表彰とディナー

5月19日（木）：テクノロジー・デイ

- ミシュラン・チャレンジ・ビバンダム開会式
- プレス・コンファレンス
- ワークショップの成果に関する概要のプレゼンテーション
- ブランデンブルグ門で、車両のパレード
- 技術展示センター
- 車両テスト
- ラリーとテストの優勝者の表彰と公式ディナー

5月20日（金）：リーダーズ・フォーラム

- 政府大臣、国会議員、企業代表者、国際機関の代表者による、持続可能なロード・モビリティについての見解と優先事項に関する発表

- コンファレンス
- 技術展示センター
- 車両テスト

5月21日（土）：学生、一般公開日

- 技術展示センター
- デモンストレーション
- 車両テスト
- 学生向け特別コンファレンス
- 若者と交通安全

5月22日（日）：一般公開日

- エコ・ドライビング・チャレンジ
- 技術展示センター
- 車両テスト
- デモンストレーション

プレス・コンファレンス - 5月19日：

- 10:15 a.m. - エア・リキード
- 10:15 a.m. - アウディ AG
- 11:00 a.m. - ミシュラン・グループ
- 2:00 p.m. - ボルボ・カー・コーポレーション
- 2:00 p.m. - シェル
- 2:40 p.m. - トタル
- 2:40 p.m. - オペル
- 3:20 p.m. - ルノー・トラック
- 3:20 p.m. - ランクセス
- 4:00 p.m. - ベルリン・パートナー
- 4:00 p.m. - ダイムラー AG
- 4:40 p.m. - プジョー・オートモビル

■会場

旧ベルリン・テンペルホーフ空港

ベルリン・テンペルホーフ空港

住所：Platz der Luftbrücke 5、12101 Berlin

ベルリンの歴史の中心地、ブランデンブルグ門から5km

シェーネフェルト国際空港から17km

テーゲル国際空港から20km

ベルリン中央駅から5km

ミシュラン・チャレンジ・ピバンダムすべてのプログラム - 技術展示センター、車両テスト、プレス・センター、会議室、エネルギー・ステーション等 - は、テンペルホーフ空港で実施されます。また、5月18日に開催予定のラリーも、この会場がスタートとゴール地点となります。